弘前学院大学のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

神を畏れ敬い人を愛する心「畏神愛人」をスクールモットーとして人間性豊かな人格の完成を目指し、文学・福祉・看護に関する高度な専門性を意欲的に追求し、地域や国際社会に貢献できる人材を育成するため、全学共通の礼拝、リトリート、キリスト教学、ヒロガク教養講話、基礎演習等を基盤に、各学部学科の専門教育科目を適切に配置し、各学部とも前期・後期には形成的評価、最終的には総括的評価を進め、それらの結果を学生個々に反映するとともに、それぞれの教育目標や学生のニーズに合わせた体系的カリキュラムを編成しています。

○文学部

弘前学院大学文学部は，計128単位以上を修得し，卒業論文を提出することで，学位取得が可能となる。この単位数に応じた科目は，以下に掲げるカリキュラム・ポリシーを基に設定されている。以下に掲げる各科目群においては，アクティブ・ラーニングの要素をバランス良く取り入れることを目指している。

英語・英米文学科及び日本語・日本文学科に共通する方針
DP1の達成に向けて
1-1. 大学における学びに必要な基礎を養うために，アクティブ・ラーニングを中心とする必修科目である「基礎科目」を設定する。
1-2. 建学の精神に基づいた幅広い教養と人間性を身につけるために，「キリスト教」「人間・社会」「自然」「地域」についての4分野から成る選択必修科目を「一般教育科目」として設定する。
1-3. 単に幅広い内容を学ぶのみならず，特定のテーマについてより深く学ぶための選択必修科目である「教養演習」を設定する。
1-4. 学びの幅を広げるために，必修科目である英語と，選択必修科目である英語以外の言語を「外国語科目」として設定する。
1-5. 一般的な知識のみならず，運動や健康についての知識の獲得とその実践のために，スポーツの実技及び講義を「保健体育科目」として設定する。
1-6. 学びの多様性を担保するため，国内外の大学との単位互換科目を設定する。

DP2の達成に向けて
2-1. 現代社会への理解を深めることを通して，将来のビジョンを描き，自らの将来に対する準備を進めるための系統だった科目を「キャリアサポート科目」として設定する。
2-2. 自身のキャリアデザインに応じて，必要な能力を育成するための選択科目を「キャリアサポート科目」として設定する。

英語・英米文学科固有の方針
DP3の達成に向けて
3-1. 専門的な学びを始める前段階として，言語・文学・文化に関する理論の概要と，高校までの学びを復習するReadingの科目を「専門基礎科目」として設定する。

3-2. 英語でのコミュニケーション能力向上のため，英語の使用を促進する必修科目として，4年間にわたる「English Communication科目」を設定する。

DP4の達成に向けて
4-1. 英語への理解を促すよう，英語学についての系統だった科目を「専門教育科目」として設定する。
4-2. 欧米の文学・文化に関して，これを俯瞰すると同時に多様な視点から学びを深めることができるよう，文学・文化についての系統だった科目を「専門教育科目」として設定する。
4-3. 両学科にまたがる専門性の高い知識及び技術を学ぶ科目を，「共通科目」として設定する。

日本語・日本文学科固有の方針
DP5の達成に向けて
5-1. 専門的な学びを始める前段階として，言語・文学・文化に関する理論の概要と，高校までの学びを復習する古文及び漢文の科目を「専門基礎科目」として設定する。
5-2. 日本語への理解を促すよう，日本語学についての系統だった科目を「専門教育科目」として設定する。
5-3. 日本の文学に関して，これを俯瞰すると同時に多様な視点から学びを深めることができるよう，文学についての系統だった科目を「専門教育科目」として設定する。
5-4. 日本及び日本に影響を与えた国の文化に関して，これを俯瞰すると同時に多様な視点から学びを深めることができるよう，文化についての系統だった科目を「専門教育科目」として設定する。
5-5. 両学科にまたがる専門性の高い知識及び技術を学ぶ科目を，「共通科目」として設定する。

○社会福祉学部

１　入学者一人一人が自ら考え、自ら行動することを通じて様々な生活課題を有する人や様々な課題を抱える地域を理解し、社会福祉および関連領域の知識や技能を総合的に活用しつつ他者とも協力してその問題を解決していくための資質や能力を体得できるような教育課程を編成しています。

２　社会福祉実践コースでは、支援を必要とする人の生活やこころを深く理解すると共に、福祉政策や制度、インフォーマルケアを含む社会システムとの連携など、具体的支援のための方法を熟知した、福祉実践者である社会福祉士または精神保健福祉士を養成できるよう科目を設定しています。

３　人間科学コースでは、人間関係を築くためのコミュニケーション力や問題解決力、リサーチ力を身につけ、現代社会の課題である「共生社会」形成の担い手として、福祉領域に限らず広く社会で活躍・貢献できる人材を育成するための科目を設定しています。

４ 社会福祉学における基本的知識、教養的知識に始まり、年次推移に従い社会福祉の専門的知識が醸成されるように順序立った科目を構成しています。

○看護学部

本学の教育理念、建学の精神、教育目標、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）の実現を図るため、以下の教育課程を「教養科目」「看護基礎科目」「看護実践科目」の３本柱で編成しています。

—教育課程編成・実施の方針—

１．多様な知識、多様な文化や価値観を理解するため、「人間と文化・社会」「人間と言語」「人間と自然科学」「総合科目」から構成する教養科目を設置しています。

２．必要な人体や病態を理解する専門科目の基盤として、「人体の構造と機能」「疾病の成り立ちと回復の促進」「健康支援と社会保障制度」の科目を看護基礎科目として設置しています。

３．看護を実践するための基本となる能力、看護ケアの展開能力、看護実践の中で研鑽する能力を修得するために、「看護の実践」「看護の統合」「臨地実習」などを体系的に学修できるように看護実践科目を設置しています。

４．保健師教育は選択制です。看護師、保健師はそれぞれの専門性と必修科目を2年次に、保健師選択の科目および相互の連携共同に関する科目を3年次に配置しています。

５．初年次教育から卒業後に向けての準備までの体系的キャリア教育プログラムに基づいた科目を配置しています。

—教育方法と評価方法—

６．大学における学修への円滑な移行を促すため初年次教育に関する科目を配置し、主体的学修への転換を図り、自ら探求する姿勢を育成します。

７．3つのポリシーに照らした大学の取り組みの評価については、PDCAサイクルで行います。

８．教育方法として、主体性とコミュニケーション能力を育成するために、地域活動および授業内での共同学習といった、多様で互恵的な学びの機会を設けています。

９．各科目の内容に応じた適正な評価方法をシラバス（授業計画）に明記し、「姿勢・態度」「知識・技術」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」など様々な視点から学修成果の評価を行います。また、標準化された学習目標の到達度を適用し、専門職として必要な能力を評価します。